

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 8月 27日

氏名 (フリガナ)	木村真由美(キムラマユミ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日(月)～8月19日(土)
大学名	東京女子医科大学
学年	5年

私は日米医学医療交流財団から助成をいただき、医学部夏季集中英語研修に参加して参りました。

プログラムでは英語での PBL や Case Presentation のレクチャーと実践、ハワイで医師として働く先生方からの Special lecture、JABSOM (ハワイ大学医学部 John A. Burns School of Medicine) のキャンパスツアーやアラモアナにあるクリニックの見学を行いました。

PBL では症例を英語で読む reader を務め、特徴的な英語表現方法を学びました。英語で鑑別疾患を挙げることで、与えられた情報から疾患を除外し確定することは初めての経験でありとても難しく感じました。他の参加者と協力することで幅広い視点で考えることができ、とても有意義な経験となりました。

Case Presentation はアメリカのレジデントに必要とされる技術であると教えていただきました。ハワイ大学医学部の学生の方々に患者役をしていただき、History Taking を行いました。どのような検査をするべきか、鑑別疾患を挙げる作業と最終的に上級医の先生に報告するまで辿り着くのがとても大変でした。しかし、History Taking や要約の表現方法を先生に教えていただき、何度も繰り返し練習することで History Taking にも慣れ、型に沿ってスムーズに行えるようになりました。さらに、先生から要約のフィードバックをいただく事ができたので、改善点を把握することができ非常に勉強になりました。プログラムで交流したハワイ大学の医学生は日系 3 世や 4 世であり日本語を少し話せる方が多く、メディカルスクールの前に日本に留学している等、彼らの話も聞くことができ貴重な機会となりました。

Special lecture では先生方からアメリカで医師として働くにはどのようなステップが必要なのか、日本との違いについてのお話を伺いました。その中でアメリカでは地域によって差別の多い場所があることに衝撃を受けました。また日本の初期研修の良い点として、アメリカとは異なり日本では初期研修医が採血などを行うため他職種の仕事への理解が深まり尊敬が生まれると伺いました。日米両方の医療現場を知る先生から見た日本の初期研修についてのお話は、これから初期研修を受ける身として大変参考になりました。講義以外の場でも、例えば farewell dinner の際に floating pronoun について教えていただきました。医療関係者でコミュニケーションを取る際に患者さんについて彼など代名詞を使うことがありますが、医療現場では代名詞は誤解を招き間違った意思疎通が起こる可能性があるので注意が必要であるという事でした。

今回のプログラムを通してアメリカで働く医師の先生方と医学生から多くの事を学ぶことができ、将来医師としてどのように働きたいかを改めて考える良い機会となりました。

最後に、日米医学医療交流財団の皆様、今回のプログラムに携わってくださった先生方、Hawaii Tokai International College の職員の皆様に心より御礼申し上げます。